



令和4年6月2日
海上保安庁

日本・インドネシア・フィリピン 三国合同油防除訓練 (MARPOLEX) の実施について (結果概要) ～三国の海上保安機関同士の連携を強化～

海上保安庁は、インドネシア(マカッサル沖)において、インドネシア及びフィリピンの海上保安機関の能力向上及び各国との連携・協力関係の強化を図るため、三国合同油防除訓練を実施しました。

インドネシアとフィリピンは二国間協定の「スラウェシ海排出油対応ネットワーク計画」に基づき、1988年からおおよそ2年ごとに合同で油防除訓練(MARPOLEX: Marine Pollution Exercise)を実施しています。海上保安庁は両国からの参加招聘を受け、1995年以降、巡視船や海上保安官を派遣しています。

今次訓練は、2021年に実施される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2019年以来3年ぶりの実施となりました。

海上保安庁からは、橋本参事官を団長とした派遣団及び巡視船「みずほ」を派遣し、インドネシア・マカッサルにおいて、インドネシア海運総局及び関係機関の巡視船等17隻、フィリピン沿岸警備隊の巡視船4隻とともに日本・インドネシア・フィリピン三国合同の大規模な油防除訓練を実施しました。

1. 実施日、場所及び参加機関

(1) 実施日: 令和4年5月24日(火)～27日(金)

(2) 場所: インドネシア・マカッサル

(3) 参加機関: 日本 海上保安庁 (巡視船「みずほ」)
インドネシア 海運総局、海上航空警察局、国家捜索救助庁等
(巡視船等17隻)
フィリピン 沿岸警備隊 (巡視船4隻) (ODAの枠組みにより日本で製造され、本年5月に就役した97m級の最新鋭の巡視船も参加)

2. 訓練概要

マカッサル沖を航行中のタンカーに旅客船が衝突し、タンカーに火災及び大規模な油流出が発生するとともにタンカー乗組員が海上に脱出したと想定。インドネシア当局の勢力のみでは対応が困難として、インドネシアが尼・比二国間協定に基づきフィリピン沿岸警備隊に支援を要請するとともに、友好国の親善訪問を終え日本向け付近海域航行中の海上保安庁巡視船「みずほ」に対しても支援を要請したとのシナリオにより、三国の巡視船艇等総勢22隻が連携・協力して一連の事案に対処する訓練を実施しました。

巡視船「みずほ」は、海上に脱出し漂流していた乗組員の捜索救助、火災タンカーの消火、油防除活動に先立って二次災害防止のために必要となる事故現場のガス検知、油回収ネットによる流出油の回収等の訓練を実施しました。

また、海上防災に係る専門部隊である海上保安庁機動防除隊の隊員も参加し、各国参加部隊に対し技術的観点からの指導を行いました。

※参考写真



訓練開会式橋本参事官挨拶



訓練開始宣言



消火訓練 1



消火訓練2(右が巡視船「みずほ」)



油防除訓練(「みずほ」搭載艇(手前)による回収)



机上訓練



訓練後の検討会における
機動防除隊副隊長からの講評

※参考動画

○訓練開会式及びプレスカンファレンス
<https://youtu.be/6Yn5JE8NfbM>

○机上訓練
https://youtu.be/-JfEL1G4s_4

○洋上訓練
<https://youtu.be/iKmjkmGwk14>

○訓練閉会式
<https://youtu.be/62eQLD0xW0Y>